

1. 基本理念と将来像

(1) 基本理念 ―まちづくりに係る普遍的な考え方―

2004 年（平成 16 年）に 6 町合併により、安芸高田市は誕生しました。それぞれの地域に個性的で誇らしい文化や自然が多く存在する中で、人口減少下においても、自助・共助・公助の支え合いのもとに、安芸高田市を一つにしてきました。これから先も、人口減少は続く予測されており、自助・共助・公助の支え合いがより一層重要となります。市民一人ひとりが能動的にまちづくりに関わり、持続可能な地域社会を実現していくことが求められます。

2015 年（平成 27 年）には安芸高田市第 2 次総合計画を策定し、「人がつながる田園都市 安芸高田」の将来像の実現に向けて、政策を推進してきました。“人がつながる”には、生活・地域・社会を支える目に見えない絆・基盤としての社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）を築いていく想いを込めており、安芸高田市第 3 次総合計画でもこの考え方を引き継いでいきます。

2024 年（令和 6 年）には、安芸高田市誕生 20 周年を記念したキャッチフレーズを一般公募し、最終選考を安芸高田市の未来を担う中高生に審査を依頼しました。その結果、

百万一心、未来へつなぐ安芸高田市

（皆で力を合わせれば、何事も成し得る）

に決定しました。

第 3 次安芸高田市総合計画では、【百万一心、未来へつなぐ安芸高田市^{注1}】をまちづくりに係る普遍的な考え方として、基本理念に位置付けます。

そして、以下に示す 3 つの視点から、基本理念の具体化を図ります。

【視点①誰がつないでいくのか】：安芸高田市民と市に関わる多様な人々

【視点②誰につないでいくのか】：20 年後の世代（子や孫たち、多様な人々）

【視点③何をつないでいくのか】：世代を超えて共通する安芸高田市

“視点①誰がつないでいくのか”については、安芸高田市に定住する市民に加えて、安芸高田市に興味・関心・愛着を持ちながら、市に関わる多様な人々と定義します。

“視点②誰につないでいくのか”については、第 3 次安芸高田市総合計画基本構想の計画期間が 20 年であることを踏まえて、20 年後の世代（子や孫たち、多様な人々）と定義します。

注 1：「百万一心」は「一日一カ一心」とも読めることから、毛利元就が、一日一日を、一人ひとりが力を合わせて、心をついに協同一致して事を行うことを教えたものとして伝わっている言葉。

“視点③何をつないでいくのか”については、社会経済情勢や価値観の変化によらない、世代を超えて共通する安芸高田市と定義し、基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態、すなわち、安芸高田市が目指す 20 年後の将来像として位置付けます。

(2) 将来像 —基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態—

① 将来像の設計方法

まず、これまでの「歴史から見る安芸高田市らしさ」を整理します。

次に、「歴史から見る安芸高田市らしさ」を参考に、市民の意見を踏まえて、世代を超えて共通する「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を明確化します。その際、“安芸高田市らしさ”という情緒的な整理だけでなく、安芸高田市としてどのような地域社会を目指していきたいかにも言及します。

また、20 年後の次世代、子や孫たちに“安芸高田市らしさ”を受け継いでいくためには、「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」と「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」も必要です。市民の意見を踏まえて、これらの機能を明確化します。

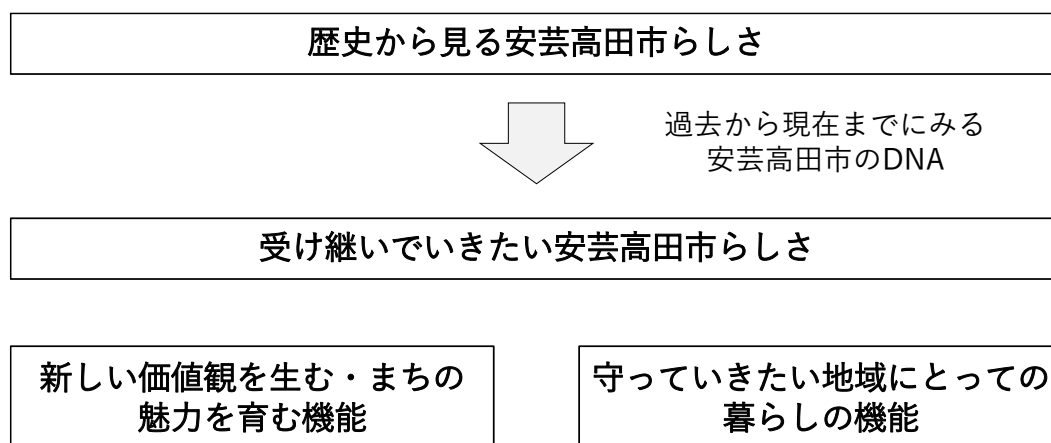


図 1 将来像の設計フロー

② 歴史から見る安芸高田市らしさ

歴史から見る安芸高田市らしさについて、以下のとおり整理します。

●歴史の転換点で多様性の受容のもと成長

毛利元就は、安芸国の国人（領主）の一人で、領地も現在の安芸高田市吉田町周辺の狭いエリアでしたが、安芸国の国人（領主）たちと協力して戦うことで、領土・領民を守り、着々と勢力を伸ばしました。毛利元就は、独裁ではなく、周辺の国人（領主）たちと対等な関係で約束を交わし、共同で利益を守り、秩序を維持しようとしていたことが伺えます。こうした共生のスタンスが、現在の安芸高田市に息づいています。

●中国地方の中心部として交通の要を担った

安芸高田市は中国地方の中心部に位置し、東西の大動脈であった西国街道に近く、山陽・山陰を結ぶ出雲街道が通っていました。交通・物流の要衝であったことで、多くの人々と共に文化が行き交う場所であったと想像されます。

●様々な人・文化がとけあい、独自の文化が芽ぶいた

安芸高田市の神楽は、出雲流神楽が石見神楽を経て、江戸期にこの地域に伝えられたと言われています。また、その過程で、九州の八幡系の神楽や高千穂神楽・備中神楽、さらに中国山地一帯に古くから伝わる農民信仰などの影響を受けて、現在の形態になったと言われています。このように、外からの文化を柔軟に取り入れて発展させ、また、他地域にも文化的影響をもたらした安芸高田市は、新しいものが芽ぶく場所でありました。

上記のとおり、歴史をひも解けば、安芸高田市には、毛利元就の存在、情緒ある自然の恵みと交通の要衝として栄え、文化と人々が幾重にも重なり、独自の文化が芽吹いてきた文脈があります。「人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽ぶく”場所」であることが、歴史から見る安芸高田市らしさと言えます。

歴史から見る安芸高田市らしさ

「人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽ぶく”場所」

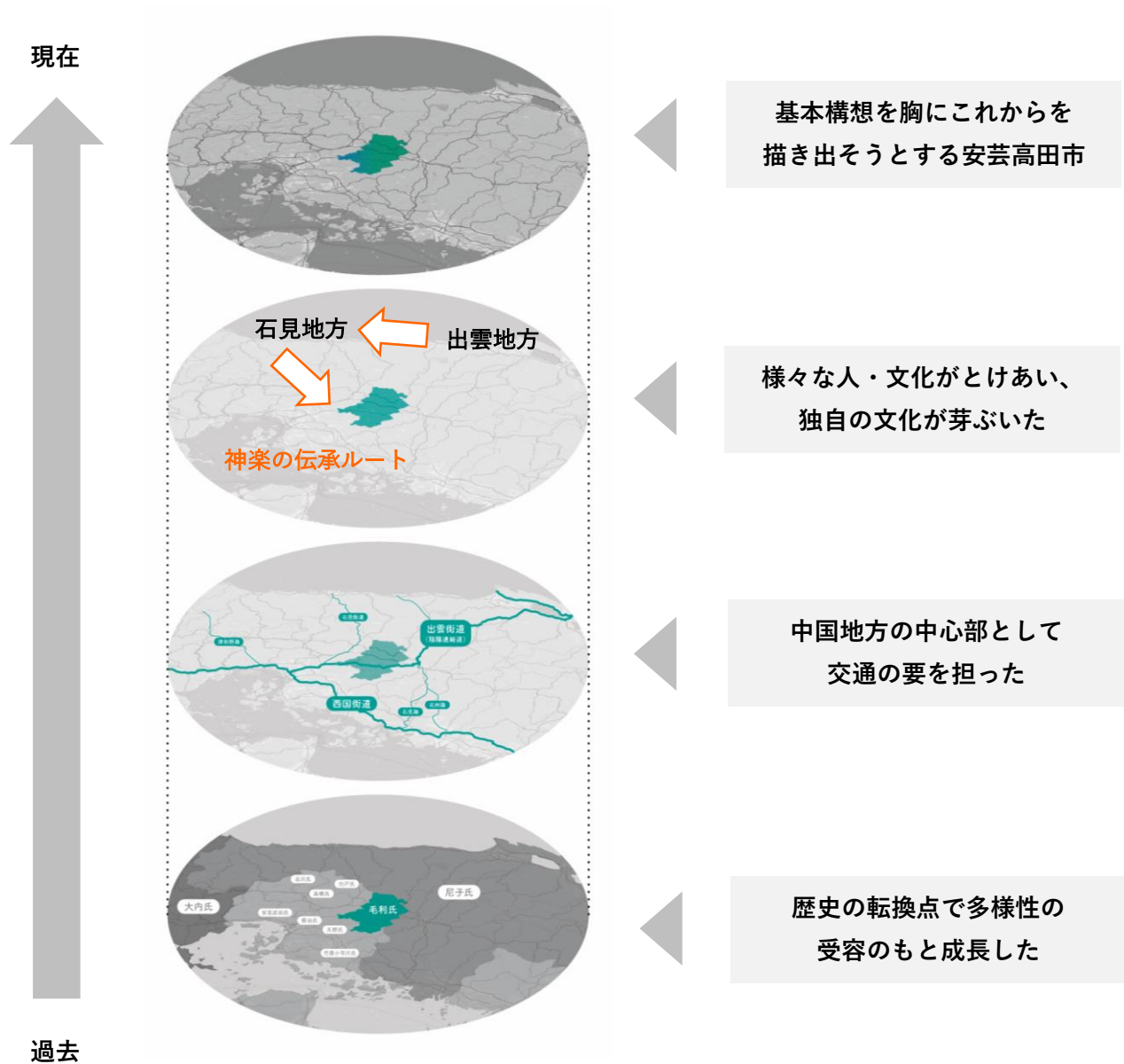


図2 歴史から見る安芸高田市らしさの変遷

③ 受け継いでいきたい安芸高田市らしさ

第3次安芸高田市総合計画の策定に際し、市民の意見を十分に反映するために地域や各団体へのヒアリングや子育て世代を対象としたワークショップ、市民アンケート調査を実施しました。また、安芸高田市の将来を担う学生や地域で活躍する様々な方と共に、安芸高田市の未来を考えるシンポジウム「安芸高田市のまちの未来を若者と語る日」を開催し、パネルディスカッションでは、第3次安芸高田市総合計画基本構想を策定する上での多くの示唆を得ました。

以上の市民の意見からみえる「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」は以下のとおりです。

●地域の多様性、多様な価値観・人材が調和

⇒受け継いでいきたい安芸高田市らしさとして、「とけあう」というキーワードで表現

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継いでいきたい価値観として、「田舎の原風景」、「都会では得られないゆとり」などが、世代に関わらず一定の回答割合を占めていました。また、中高生のアンケート調査結果では、「中心部のまちなみと郊外部の田舎風景」に地域愛着との相関がみられました。

現役世代、次世代、多様な人材・価値観がまざり合うシンポジウムで実施した、参加者アンケートの調査結果では、「安芸高田市の魅力を再認識した」の回答が多くありました。

このことから、安芸高田市の中心部のまちなみと、自然やゆとりを感じながら暮らせる田舎の側面が程よく調和している空間構成や、多様な人材・価値観が混在するところが市民にとっての「安芸高田市らしさ」であると考えられます。

●新しい社会・地域の変化に対応でき、若者を含むみんなのチャレンジを応援

⇒受け継いでいきたい安芸高田市らしさとして、「芽ぶく」というキーワードで表現

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継ぎたい価値観として、「新しい社会・地域の変化に対応できるまち」が、世代に関わらず一定の回答割合を占めていました。また、中高生のアンケート調査結果では、将来住みたいまちの姿として、学年が上がるほど、「若者の価値観やチャレンジを応援できるまち」と回答する割合が高い傾向にありました。

シンポジウムでは、高校生が発表した内容に対して、熱意と自由で斬新な発想が良かったという回答割合が高い傾向にありました。シンポジウムに参加した地域おこし協力隊員をはじめ、若者を含むみんなのチャレンジを共有することができました。

このことから、新しい社会・地域の変化に対応できるまちや、若者を含むみんなのチャレンジを応援し続ける土壌も、市民にとっての「安芸高田市らしさ」であると考えられます。

●自分らしく生きていける環境づくりと、相互理解のための対話

⇒受け継いでいきたい安芸高田市らしさとして、「一つに就^なる」というキーワードを活用

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継ぎたい価値観として、「自分らしく生きていける環境」が、世代に関わらず一定の回答割合を占めていました。

シンポジウムでは、世代・立場を超えた対話を通して、それぞれの価値観を共有し、他者の発表や意見を当事者意識により、受けとめている光景が見受けられました。また、“一人ひとりの想いを形にできるまちであって欲しい”というコメントもありました。

このことから、自分らしく生きていける環境を尊重・実現するためには、多様性の受容による市民一人ひとりの相互理解が必要であり、市民にとっての「安芸高田市らしさ」を次世代に受け継いでいく上で、重要な考え方といえます。

以上の結果を踏まえて、「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を以下のとおり整理しました。

「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を受け継いでいく上で、近年のデジタル化の加速化も踏まえ、市内外のリアルな交流だけでなく、デジタル技術も活用した交流により、多様なコミュニケーションを生み出し、新しいまちづくりにつなげていくことも目指します。

とけあい、芽ぶき、一つに就^なる。

安芸高田市は市街地と田園地帯がとけあう、暮らしやすいまち。

この風景の中で歴史と文化、多様な人々がまざりあい、
まちのカタチと新しいモノ・コトを織りなしてきました。
まざり、とけあうには「肯定」することが大切です。

若者を始め、多くの市民が新たにチャレンジするまち。

新たなチャレンジがまちのあちこちで芽ぶいています。
市民一人ひとりが能動的に「行動」することにより、芽ぶきが起こります。

お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち。

まとめ、安芸高田市が一つに就^なるには、「共有」が必要不可欠です。

とけあい、芽ぶき、一つに就^なる、こうした価値観を 20 年後の世代に受け継ぎます。

④ 新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能

【世代別集計】

市民アンケート調査結果によると、20年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設として、世代に関わらず、「道の駅『三矢の里あきたかた』」の回答割合が最も高いです。

「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」の実現には、多様な人々がまじり、新しいことが芽ぶく場所づくりも必要です。道の駅をゲートウェイに、各地区の魅力を活かしていく取組やデジタル技術を活用した情報発信や交流の仕組みを構築していくことが重要です。

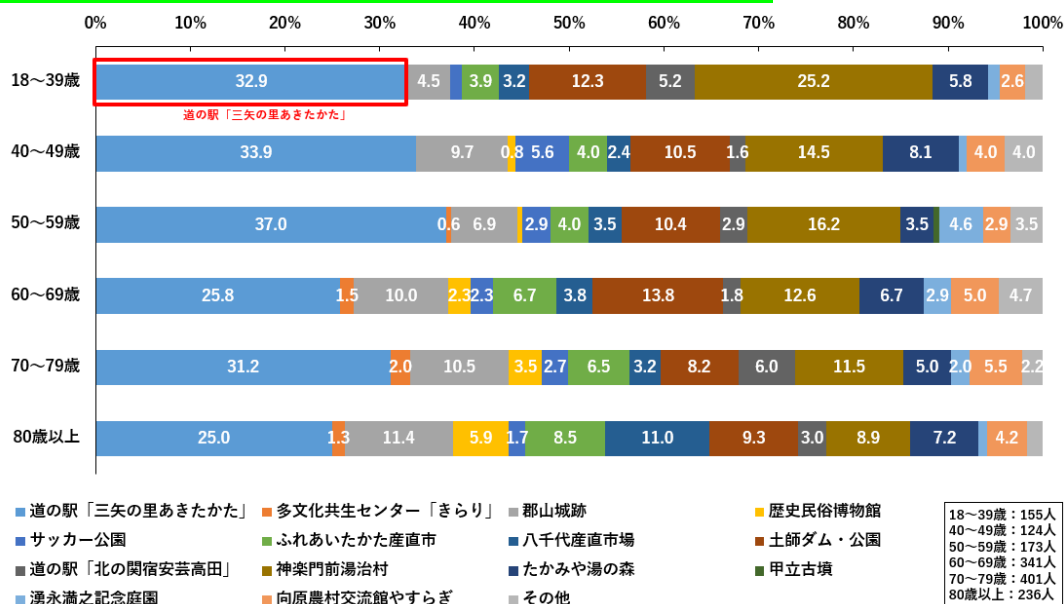


図3 20年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第1位の回答】

【地区別集計】

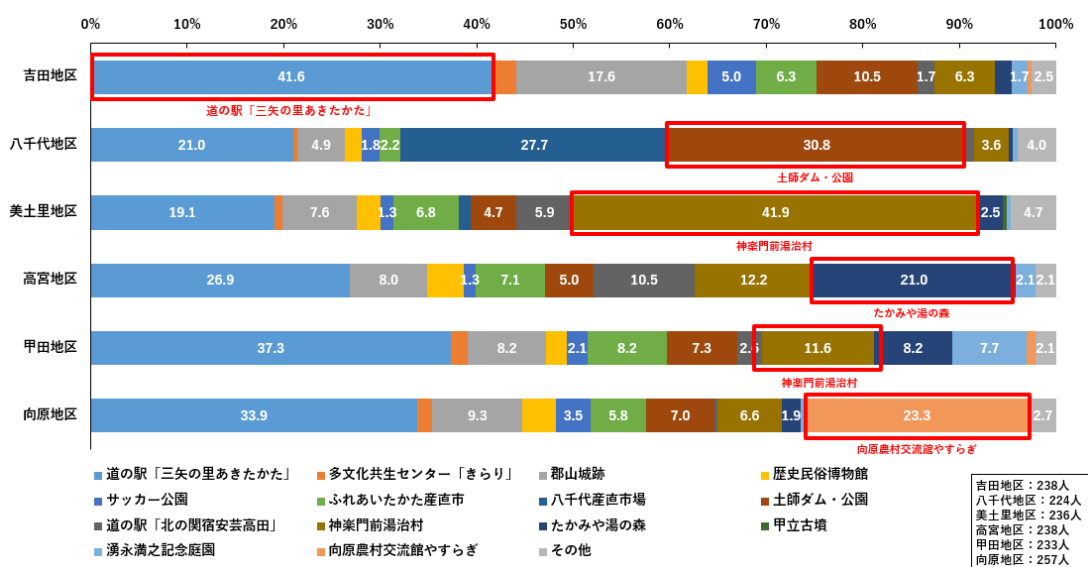


図4 20年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第1位の回答】

⑤ 守っていききたい地域にとっての暮らしの機能

【世代別集計】

市民アンケート調査結果によると、20年後の未来、安芸高田市で残していくべきと考える生活機能として、世代に関わらず、「医療・診療施設」、「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が高いです。

「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」の実現には、**デジタル技術も活用しながら**、生活する上で必要な機能を守ることが重要です。

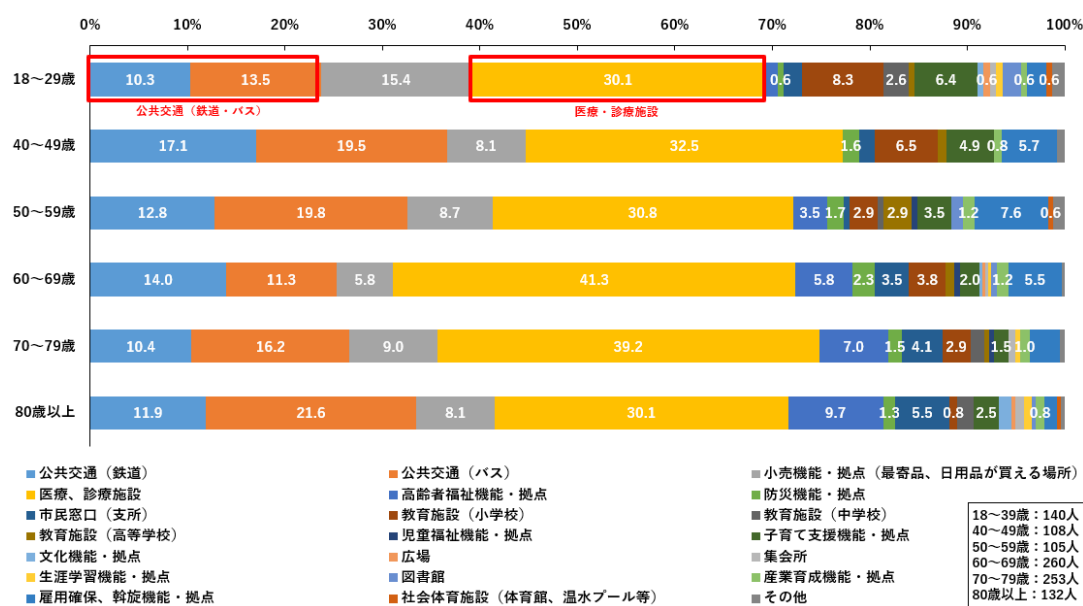


図5 20年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第1位の回答】

【地区別集計】

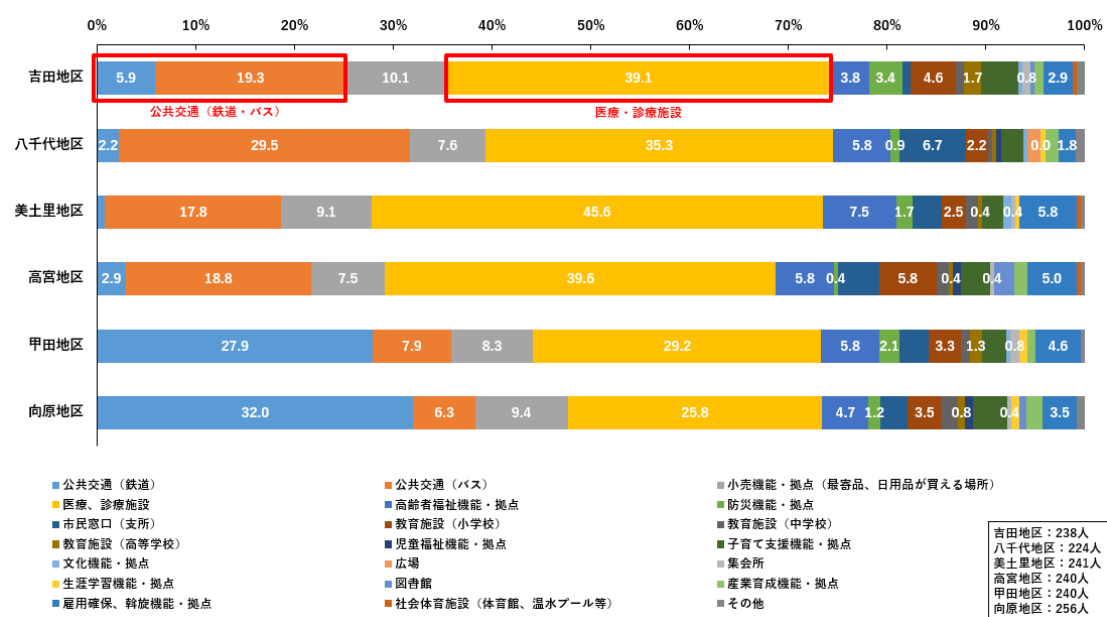


図6 20年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第1位の回答】

2. 将来像の実現に必要な目標値

(1) 目標指標の設定

将来像の実現に向けて、市民をはじめ、次世代の子や孫たちへの約束事、行政が目指す目標指標・目標数値を事前に明示します。

●基本理念 「百万一心、未来へつなぐ安芸高田市」を評価する目標指標

基本理念は「まちづくりに係る普遍的な考え方」であり、目標指標も普遍性があることが重要です。

このため、「市民の幸福度^{注1}」を目標指標として設定します。

●将来像 「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を評価する目標指標

将来像の「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」は情緒的な側面が強く、市民一人ひとりが能動的に地域に関わり、地域への愛着の醸成や新たなことへの挑戦・成長する機会、ソーシャル・キャピタル（生活・地域・社会を支える目に見えない絆・基盤としての社会関係資本）を示していると言えます。**リアルな交流だけでなく、デジタル技術も活用した対話や交流の仕組みを構築し、ソーシャル・キャピタルを高めていくことが重要です。**

安芸高田市第2次総合計画では、ソーシャル・キャピタルの概念を将来像に位置付けていることから、安芸高田市第3次総合計画においても目標指標の設定を通じて引き継ぎます。

このため、「地域への愛着度」、「新たなことに挑戦・成長する機会」、「ソーシャル・キャピタル（ネットワーク・信頼・規範）」を目標指標として設定します。

●将来像 「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」を評価する目標指標

将来像の「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」は地域内外の新たな交流を生み出し、地域経済を強化していこうとする側面が強いです。そのため、**地域内だけでなく、地域内外を結ぶ公共交通の移動利便性を高めつつ、**地域外からの関係人口^{注2}・交流人口^{注3}を増やして（≡関係人口・観光客数・市外からの就業人口）、そこで稼いだ資金を地域内に循環させ（≡地域経済循環率）、所得の向上（≡産業の付加価値額）を図り、新たな賑わいを生み出していくことが重要です。

このため、「観光客数」、「市外からの就業人口」、「地域経済循環率^{注4}」、「産業の付加価値額^{注5}」を目標指標として設定します。

注1：市民の幸福度は、アンケート調査により10点満点（とても幸せが10点、とても不幸が0点）で把握

注2：関係人口は、移住や観光ではなく、地域と多様な関わり方をしている人のこと

注3：交流人口は、その地域に一時的に訪れる人々のこと

注4：地域経済循環率は、地域内で生み出された所得がどの程度域内に循環しているかを把握する指標

注5：産業の付加価値額は、企業の生産活動によって生み出された価値の総額を示す指標

●将来像　－守っていききたい地域にとっての暮らしの機能－　を評価する目標指標

将来像の「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」は医療や公共交通など、地域に住み続ける上で必要不可欠な生活機能であり、それらの存続可能性は定住人口に依存します。また、20年後の世代に受け継いでいきたい安芸高田市ならではの価値観として、「田舎の原風景」と回答する市民の方々が多く、農地を守っていくことが重要です。

このため、「定住人口」、「農業産出額^{注1}」を目標指標として設定します。

注1：農業産出額は、1年間の農業生産活動によって得られた農産物や加工農産物の総額を示す指標

(2) 目標値の設定

各目標指標の目標値について、以下のとおり設定します。

第3次安芸高田市総合計画の最終目標は基本理念の達成であり、市民の幸福度の向上ですが、その達成には、将来像の実現が必要不可欠です。第3次安芸高田市総合計画では、基本理念・将来像を評価するための各目標指標の目標値の達成に向けて、基本計画を推進していきます。

なお、各目標指標の詳細は次頁以降で整理します。

表1 目標指標の現況値・目標値

区分		目標指標		現況値		目標値	
				年度	値	年度	値
基本理念	百万一心、 未来へつなぐ安芸高田市	市民の幸福度		2024	6.5点	2045	現況値以上
将来像	受け継いでいきたい 安芸高田市らしさ	地域への愛着度		2024	50.4%	2045	現況値以上
		新たなことに挑戦・成長する機会		2024	5.1%	2045	現況値以上
		・ソーシャル ・キャピタル	ネットワーク (地域振興組織への参加率)	2024	54.9%	2045	現況値以上
			信頼 (同じ集落に住む人たちを信頼)	2024	59.7%	2045	現況値以上
			規範 (困った時に相談できる人の存在)	2024	39.0%	2045	現況値以上
	新しい価値観を生む ・まちの魅力を育む機能	地域経済循環率		2018	80.5%	2045	85.0%以上
		産業の付加価値額		2021	425万円/人	2045	430万円/人
		観光客数		2023	226万人	2045	250万人以上
		市外からの就業人口		2020	4,018人	2045	3,000人以上
	守っていききたい地域に とっての暮らしの機能	定住人口		2024	2.4万人	2045	1.8万人
		農業産出額		2022	47億円	2045	現況値以上

① 市民の幸福度

世代別の市民の幸福度（平均値）の現況値は以下のとおりです。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

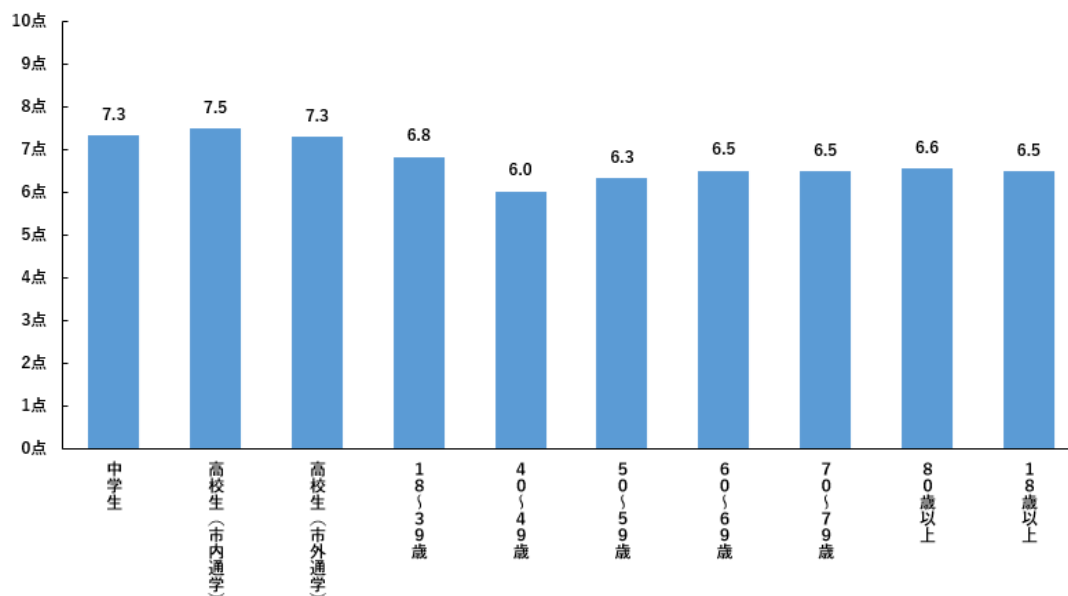


図7 世代別の市民の幸福度（平均値）

② 地域への愛着度

世代別の地域への愛着度の現況値は以下のとおりです。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

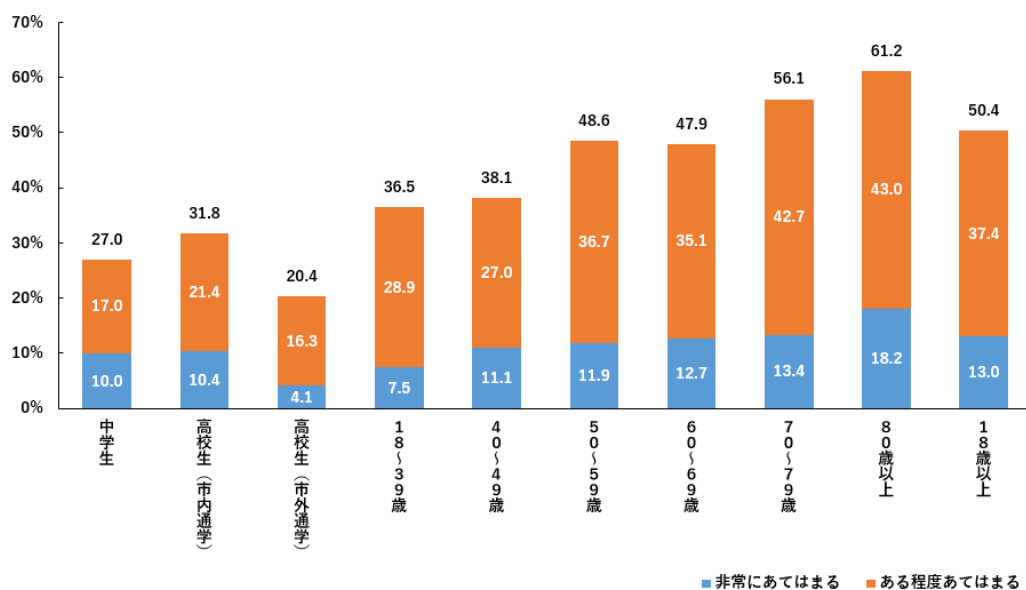


図8 世代別の地域への愛着度（暮らしている地域にずっと住み続けたいか）

③ 新たなことに挑戦・成長する機会

世代が上がるごとに、減少する傾向があり、80歳以上で増加に転じています。20年後の2045年の目標値は、現況値以上とします。

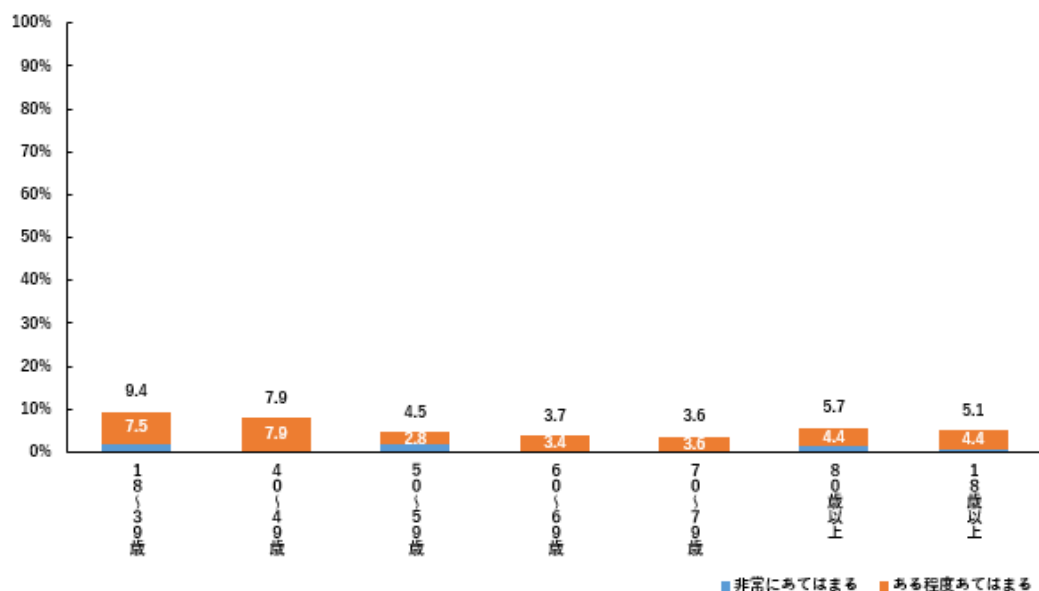


図9 新たなことに挑戦・成長するための機会

④ ソーシャル・キャピタル（ネットワーク）

世代が上がるにつれて、地域振興組織への参加率は高い傾向にあります。20年後の2045年の目標値は、現況値以上とします。

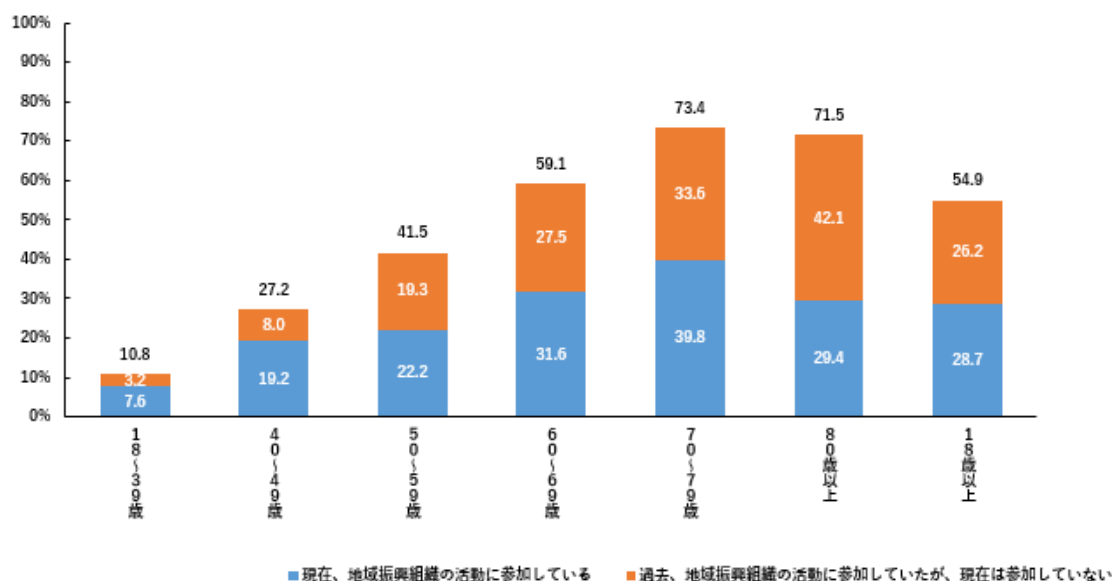


図10 地域振興組織への参加状況

⑤ ソーシャル・キャピタル（信頼）

世代別の「同じ集落に住む人たち」の信頼感に一定の傾向は見受けられませんが、80歳以上で信頼感是最も高いです。20年後の2045年の目標値は、現況値以上とします。

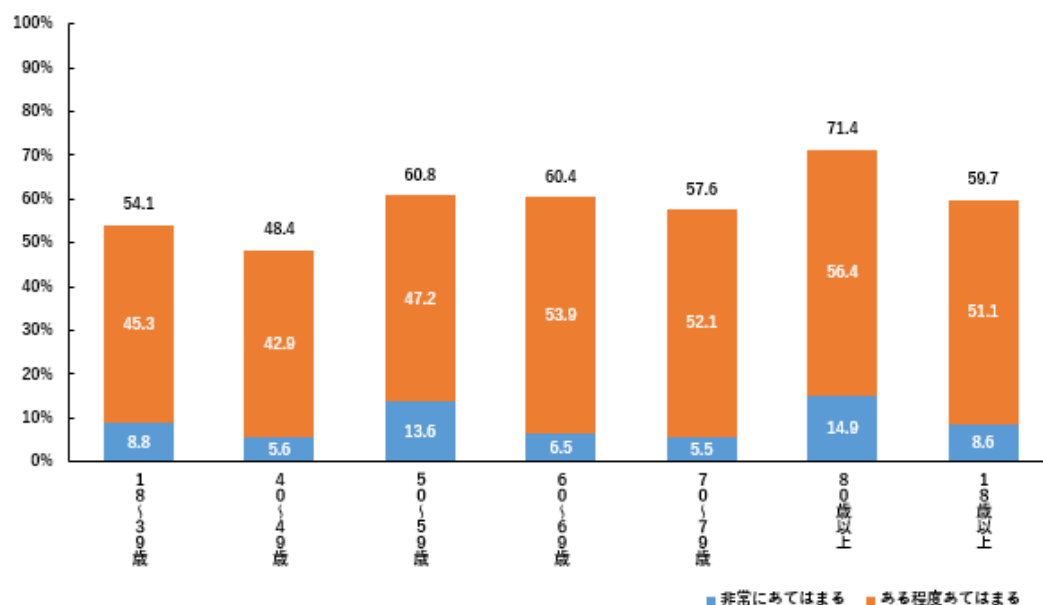


図 11 同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している

⑥ ソーシャル・キャピタル（規範）

世代別の「困った時に相談できる人が身近にいる」には、一定の傾向は見受けられませんが、18-39歳で最も高いです。20年後の2045年の目標値は、現況値以上とします。

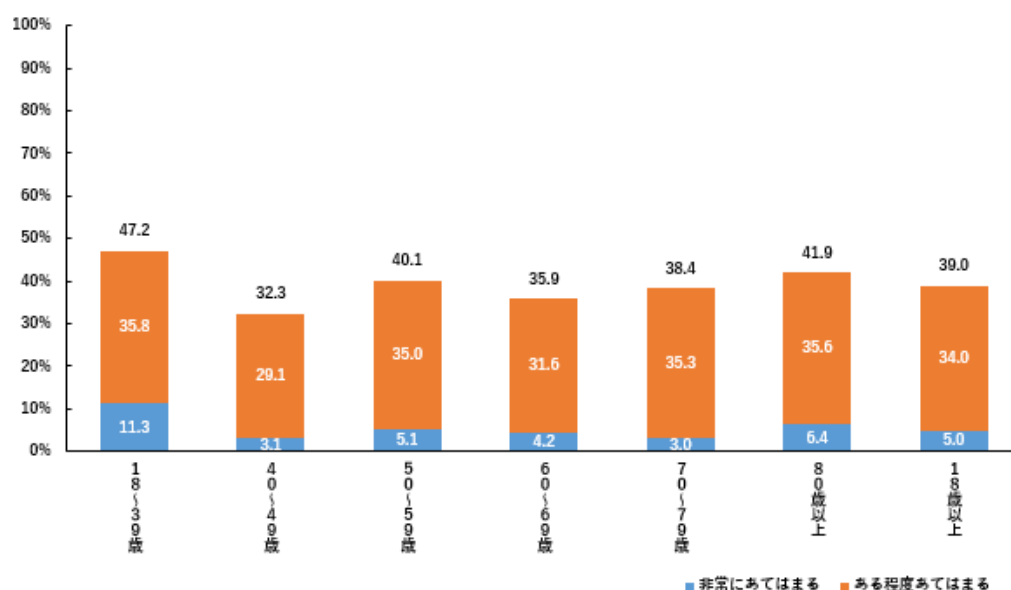


図 12 困ったときに相談できる人が身近にいる

⑦ 地域経済循環率

地域経済循環率の推移は以下のとおりです。総合戦略の目標値との整合を図り、20年後の2045年は85%以上とします。

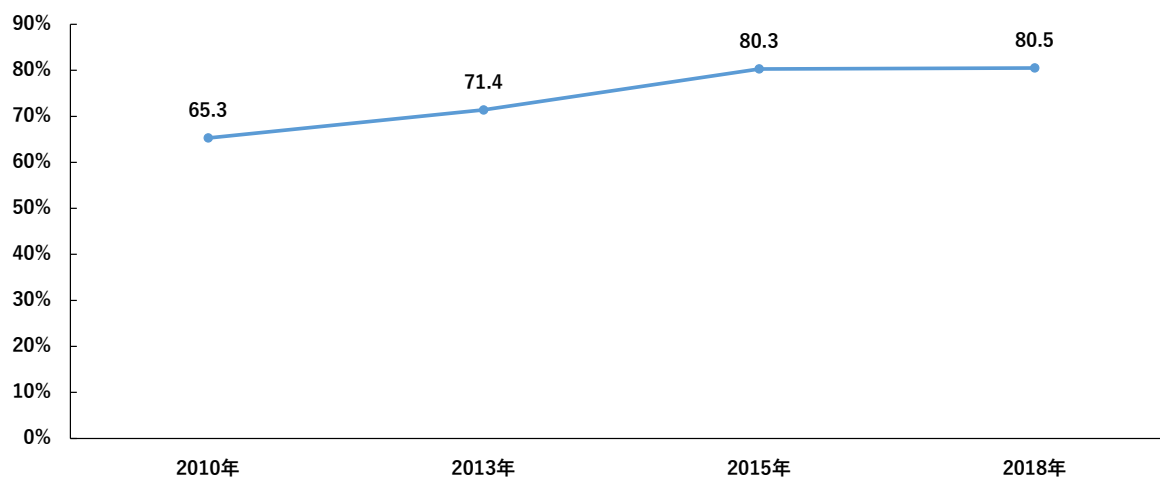


図 13 地域経済循環率の推移

出典：RESAS（地域経済分析システム）『地域経済循環マップ』

⑧ 産業の付加価値額

事業従業者一人当たり純付加価値額の推移は以下のとおりです。目標値の設定に際しては、事業従業者一人当たり純付加価値額と地域経済循環率の相関関係^{注1}に基づく回帰式 ($y=3.2874x+148$) を活用します。地域経済循環率の2045年の目標値85%をxに代入して、産業の付加価値額の2045年の目標値は427万円(≒430万円)とします。

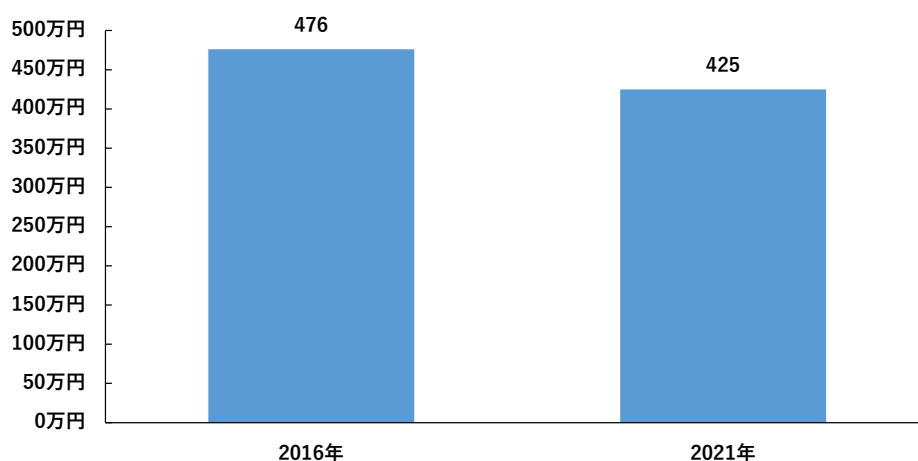


図14 事業従業者一人当たり純付加価値額の推移

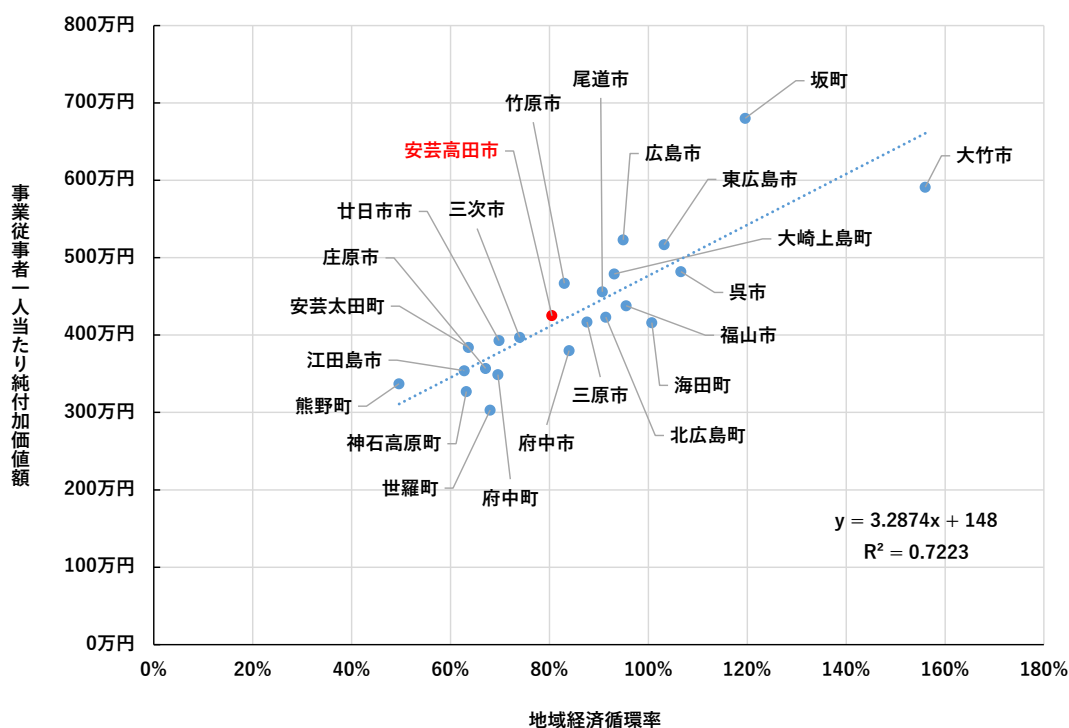


図15 事業従業者一人当たり純付加価値額と地域経済循環率の散布図

出典：RESAS（地域経済分析システム）『地域経済循環マップ』（2018年）、
経済産業省『経済センサス-活動調査』（2021年）

注1：相関関係は、2つの事柄や値に関連性がある関係を示し、一方の値が変化すると、もう一方の値も変化する傾向にあること

⑨ 観光客数

観光客数の推移は以下のとおりです。総合戦略の目標値との整合を図り、20年後の2045年は250万人以上とします。

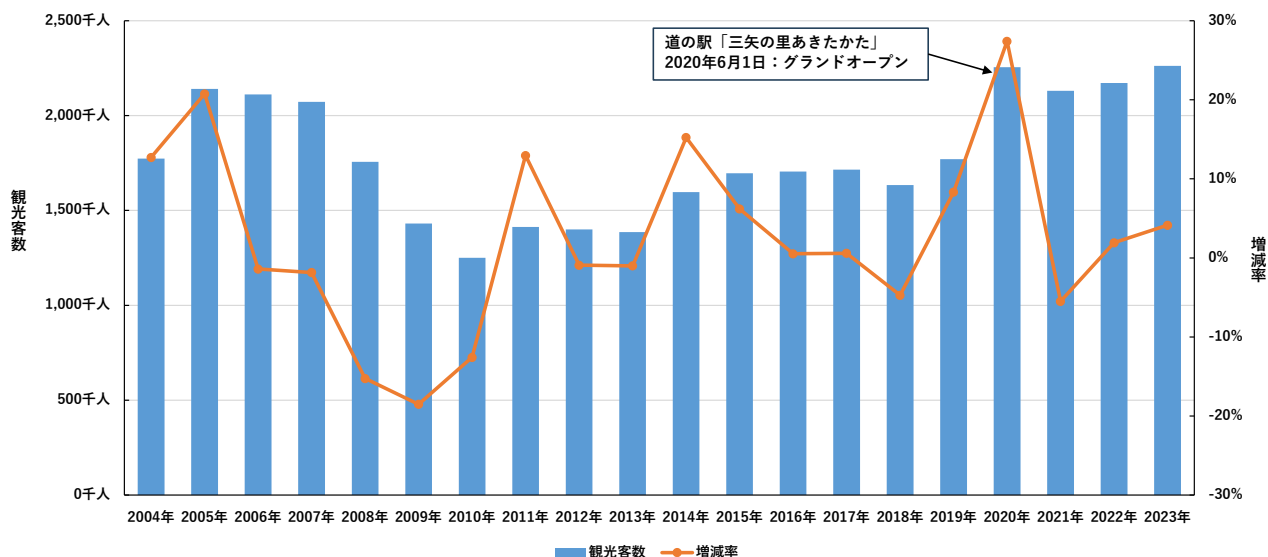


図16 観光客数の推移

出典：一般社団法人広島県観光連盟（HIT）『令和5年広島県観光客数の動向-III-観光客統計表』

⑩ 市外からの就業人口

安芸高田市外からの就業人口は2010年・2015年・2020年で増加していますが、将来的に周辺市町の居住人口は減少するため、安芸高田市外からの就業人口も減少することが予測されます。このことから、20年後の2045年の目標値は、推計値を踏まえて3,000人以上とします。

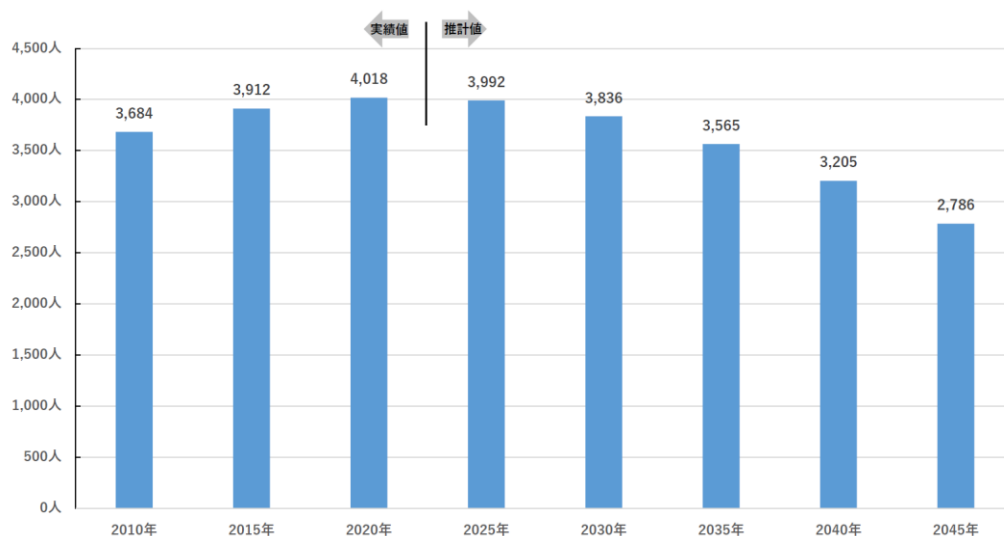


図17 安芸高田市外からの就業人口（市町村別）の推移

出典：総務省統計局『国勢調査』2010年-2020年、2025年以降は推計値

⑪ 定住人口

将来の人口が減少し続ければ、行政サービスの低下、生活関連サービス施設の撤退や地域コミュニティの衰退など、あらゆる問題が発生することが懸念されます。例えば、国土交通省の資料によると、定住人口が 1.75 万人を下回ると救急告示病院や飲食店等の存続確率が 50% を下回ることが指摘されています。

こうした状況を防ぐためには、安芸高田市では、政策シナリオ B（毎年、市全体で計 126 人の転入促進又は転出抑制）程度の政策強度で、2045 年には約 1.8 万人の定住人口を維持する必要があります。

なお、将来人口については、2015 年・2020 年の国勢調査データを活用して、旧 6 町別に性別・5 歳階級別のコーホート変化率^{注1}、子ども女性比^{注2}を算出して、コーホート変化率法^{注3}により推計しています。

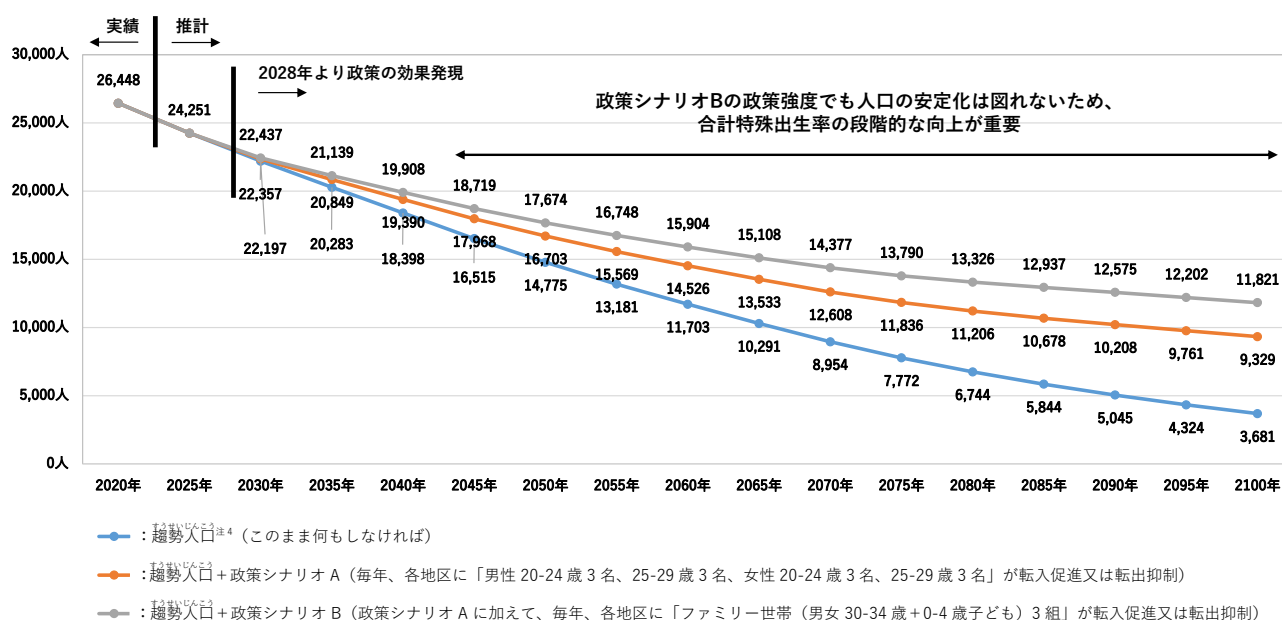


図 18 シナリオ別の人口の超長期推計の結果

出典：国勢調査（2015 年・2020 年）、国立社会保障人口問題研究所のデータを活用して、独自に推計

注 1：性別・5 歳階級別のコーホート変化率は、過去から現在までの人口変化率

注 2：子ども女性比は、0-4 歳と 20-44 歳女性人口の比

注 3：コーホート変化率法は、現在の性別・5 歳階級別人口にコーホート変化率を乗じ、将来人口を推計する手法

注 4：趨勢人口は、過去から現在に至るまでの趨勢（なりゆき）を将来に延長した人口

⑫ 農業産出額

農業産出額（総額）は増加傾向にあります。20年後の2045年の目標値は、現況値以上とします。

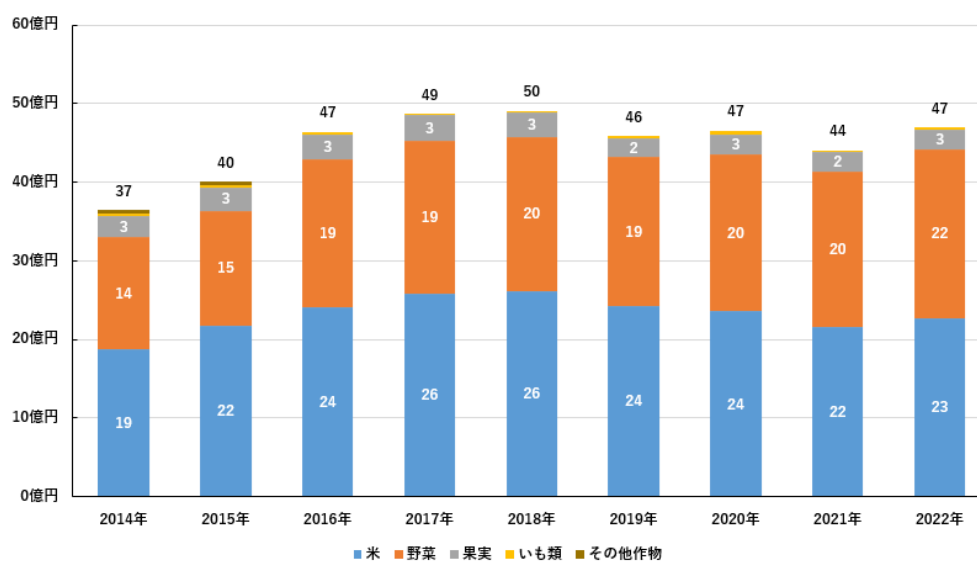
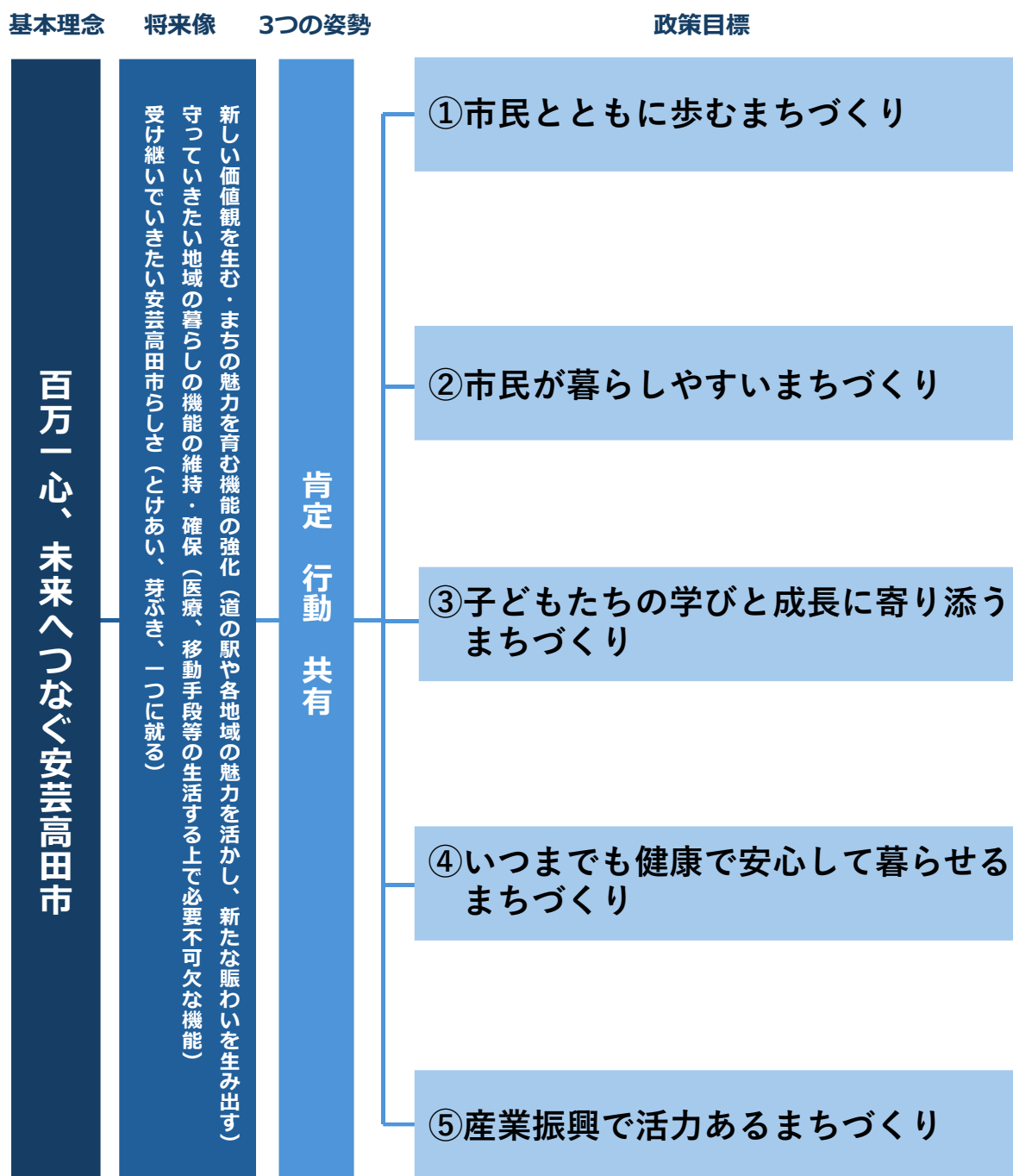


図 19 農業産出額（耕種）の推移

出典：農林水産省『市町村別農業産出額（推計）』2014年-2022年

3. 政策体系

第3次安芸高田市総合計画基本構想の政策体系は以下のとおりです。行政のあり方の提示、20年後の世代を対象とした政策、全世代を対象とした政策により、将来像の実現を図ります。



(1) 将来像の実現に必要な3つの姿勢

市民の意見を踏まえて、多様な人々の価値観を**肯定的**にとらえ認めて、**行動**することで次の展開が進み、それを周りの人に**共有**することで、魅力的で誰もが好きな安芸高田市を目指します。

(2) 将来像の実現に必要な政策目標

将来像の実現に必要な政策目標として、以下に示す5つを掲げます。

政策目標1：市民と共に歩むまちづくり

市民と行政の対話を通じて、安芸高田市として推進したいまちづくりへの相互理解を深め、市の情勢に適した行財政改革を実現します。また、行政組織の効果的・機能的運用の実現のために職員の育成と組織づくりを進めます。

政策目標2：市民が暮らしやすいまちづくり

市民一人ひとりの尊厳と自主性を互いに認め合える文化の醸成を目的とし、地域振興組織やコミュニティ活動を通じた市民の相互理解を推進します。また、それぞれの地域の課題が、安芸高田市としての課題という認識を市民・行政が一致して持つことにより、自助・共助・公助の円滑な連携を土台とし、市民の生活に即した課題解決を市民・行政が一体となって取り組みます。

安芸高田市が持つ有形・無形資産を通して、市民のシビックプライドを醸成すると共に、市外に対する積極的なプロモーション活動を展開し、交流人口・関係人口の拡大を目指します。

政策目標3：子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくり

安芸高田市の宝である子どもたち一人ひとりに対して、その年代・その背景に配慮したきめ細かな支援を実施します。また、子どもたちに学びに対する多様な選択肢を整備することで、子どもたちの個性に合った教育を実現すると共に安芸高田市の新たな芽ぶきを促進します。

家庭、地域や学校といった子どもたちを取り巻く状況に対して、対話と相互理解を念頭において支援を実施し、誰もが子どもたちに寄り添っているという意識の醸成を促進します。

政策目標4：いつまでも健康で安心して暮らせるまちづくり

誰もが生涯にわたって、健やかに過ごせるよう、健康づくりへの支援や意識啓発を促進すると共に誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう医療機関や団体などと連携した地域の体制

づくりを推進します。また、健康寿命延伸に向けた取組として、健康管理や予防促進を展開すると共に、積極的な社会活動への参加を呼びかけます。

乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージ^{注1}における健診制度を活用し、疾病の早期発見や自らの健康管理に活かせるよう、健診の利用促進を図ります。また、必要なときに、安心して質の高い医療を受けることができるよう、地域の医療体制の充実を支援します。

政策目標 5：産業振興で活力あるまちづくり

安芸高田市の経済を支える主要産業である農業や製造業をはじめ、林業・水産業の活性化を推進します。また、インターネット環境を充実させることにより、ICT^{注2}産業やサテライトオフィス^{注3}等新たな産業の創出を図ります。

観光業においては、地域の歴史・文化などの資源を磨き上げると共に外部へ積極的に発信することで、新たな観光資源の創出と新規雇用を生み出します。

注 1：ライフステージは、乳幼児期、青壮年期、高齢期等の人の生涯における各段階

注 2：ICT は、information and communication technology の略。デジタル化や通信技術を活用したコミュニケーションを通して、円滑なコミュニケーションの促進や生産性や業務効率の向上を図ること

注 3：サテライトオフィスは、企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと

(3) 横断的な政策手段

人口減少に伴う財政の縮小を踏まえれば、「公民連携の推進」、「デジタルの活用」が必要不可欠です。また、その実現のためには、「プロモーションの強化」により、安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促すと共に、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進していくことが重要です。

第3次安芸高田市総合計画では、こうした横断的な政策手段を推進していきます。

表2 横断的な政策手段の概要

横断的な政策手段		内容
大分類	中分類	
公民連携の推進	担い手の視点	・民間企業等の外部人材の活用により、行政サービスの効率化等を推進 ・コミュニティ組織と連携して、政策課題を地域課題に移行
	サービス・技術の視点	・民間企業等が保有するサービス・技術の実証の場を提供
	資金の視点	・PPP/PFI ^{注1} による公共施設等の維持・管理、運営を最適化 ・成果連動型民間委託契約 ^{注2} 方式（PFS/SIB）の導入による公共サービスの効率化 ・ふるさと納税、企業版ふるさと納税による公共投資の原資の確保 ・まちづくりの取組に対する地域住民の出資、クラウドファンディング等による地域エンゲージメントファイナンス ^{注3} の推進
デジタルの活用	庁内の視点	・行政手続のデジタル化や行政内部のデータ連携等を通じて、業務効率化を推進
	地域の視点	・行政手続のデジタル化や地域へのデジタルの導入による、あらゆる生活サービスの質の向上を推進 ・デジタルリテラシー ^{注4} を高めるための取組を推進
プロモーションの強化	市内の視点	・安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促進
	市外の視点	・安芸高田市の認知度を高めて、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進

注1：PPP/PFIは、Public Private Partnership と Private Finance Initiative の略。公共サービスの提供に民間が参画する手法のこと

注2：成果連動型民間委託契約は、地方公共団体等が民間事業者等に委託等する事業のうち 解決を目指す行政課題に対応した成果指標を設定し、支払額を当該成果指標の改善状況に連動させる契約方式により実施するもの

注3：地域エンゲージメントファイナンスは、地域住民と経営者の間に相互に助け合う関係（エンゲージメント）が成立するような地域住民の出資のこと

注4：デジタルリテラシーは、デジタル技術に関する知識やスキル、順応性等を備え、それらを適切に活用できる能力

4. 計画の推進

地方自治体を取り巻く社会情勢は、益々厳しさを増しています。基本構想に掲げた目標を着実に推進していくため、次の基本的な姿勢に立脚し、様々な行政課題に積極的に挑戦する市政を目指します。

●基本計画の策定と推進

基本構想に基づく具体的な取組を進めるうえでの指針となる「基本計画」を策定し、総合的・計画的な行政を推進します。また、昨今の予測不可能な社会経済情勢の変化にも対応できるように、毎年の進捗管理により、柔軟に基本計画を見直せる仕組みとします。

●地域との協働・共創によるまちづくりの推進

基本計画に位置付ける具体的な施策・事業をはじめとして、行政主導だけでなく、地域との協働・共創によるまちづくりを推進します。

●健全な財政運営と行財政改革の推進

基本計画の策定・推進に際しては、20年後の世代に負担をかけることのないよう、財政健全化計画の推進に努めます。また、目標・計画の着実な実施に向け、安芸高田市行財政改革を推進します。

●行政評価による経営管理

個別の施策や事務事業については、基本構想・基本計画に位置付ける目標指標を活用した行政評価システムにより検証・改善を図ります。

●広域連携の推進と国・県等関係機関との連携強化

行政サービスの一層の専門化、高度化・厳しい財政状況の観点から、広島広域都市圏・近隣市町との連携強化により、効率的・効果的な事業推進に努めます。

総合計画の円滑な推進を図るため、国県等関係機関との連携を密にし、効率的かつ着実な事業推進に努めます。